



# 関町小通信

平成27年5月29日  
練馬区立関町小学校  
学校だより 6月号

## 友達が多い方がそりゃいいけれど…

校長 福岡 勤

テレビゲームの発売年は昭和58年（1983）だそうですから、テレビの前に座り、コントローラーを手に持って興じていた子供たちがまさに今、親となっています。昔、テレビゲームは「みんなで遊んでいる」と言う集団の姿を操作の順番を待つ、順番が来るまで漫画などを見て過ごすという個の姿に変えました。今では子供もスマートフォンを代表とする手のひらサイズの機器を手に持ち、時には空間を共有することなく通信機能を使って「みんなで遊んでいる姿」や、行列や注文待ちのときに画面に釘付けになっている「個の姿」があたり前になりました。

このように、現代の子供たちは、生まれたときから身の回りにケータイやスマートフォンがあるなど、数々の電子機器に囲まれて育った世代です。今、御存じのとおり、無料通話・メールアプリ・SNS等によるある種の中毒症状とも、脅迫観念にさいなまれているとも言われる現状が中高生だけでなく小学生までにもまん延していることが問題となっています。皆様の御家庭はいかがでしょう。様々なところで言われていますが、「親は安易に買い与えない」、「買い与えたならルールを決める」。ここが大事です。親の知らないところで外の大人の世界と簡単につながれ、いじめの温床となりうる機器を御自分の子供に与えていることをお忘れなく…。

話は変わって、4月の遠足での話です。山道に「まむし ちゅうい！」の立て札がひょっこり現れました。「校長先生？ マムシってどんな虫？」と尋ねられました。このような質問には、心がほっこりいたします。また、「和式トイレが使えない・使いたくない」



という理由で、洋式トイレの扉の前に長蛇の列ができました。（学校内のトイレでも、「ハエが飛んでいるので入れない」という訴えがあることがあります。）

「これから、お昼ご飯の時間にします。」「一人ぼっちにしない！3人以上で食べる…いいですね！」「は〜い！」。ほとんど例外なく、教員は校外での昼食前にはこんな指導を行います。ちょっと待ってください。これって、もしかしたら大学生等で問題になっている、友達がいない人と周りから見られる「ぼっち飯（一人で食べる食事）」や友達がいない人と思われまいようにあえて便所の個室内で食事する「便所飯」を誘発していた指導なのかもしれません。「ぼっち」とは独りぼっちから派生した「独りでいることを意味することばだそうです。

「リア充」という言葉もあります。こちらは「リアル（現実）の生活が充実している」状態を表す言葉だそうです。先ほどのメールアプリ・SNSの例も含め、仮想世界でも現実世界においても常に周囲の人を意識し、つながっていなければならないのでしょうか。きっと心が疲弊してしまうことでしょう。「子供たち、いつも一人ぼっちは困るけれど、『一人』＝『友達がいない』ことではありませんよ。」